

男子は細田、女子は井出が優勝

2007NTTトライアスロンジャパンカップ第7戦・
JTUSーパースプリントトライアスロン選手権第2戦小名浜港大会

細田は七ヶ浜からジャパンカップ3大会連続優勝

7月22日(日)、福島県いわき市小名浜港の特設コースで、2007NTTトライアスロンジャパンカップ第7戦・2007JTUSーパースプリントトライアスロン選手権第2戦小名浜港大会が開催された。

スーパースプリントシリーズ第2戦となる本大会には、地元福島出身で昨年の覇者である西内洋行(西京味噌)や関根明子(NTT東日本・NTT西日本)といったベテラン勢から、ジャパンカップ2連勝中で好調の細田雄一(ウイダー)、スーパースプリント選手権酒田大会を制した15歳の佐藤優香(日本橋女学館高等学校)ら若手選手まで男子25名、女子17名が参加した。

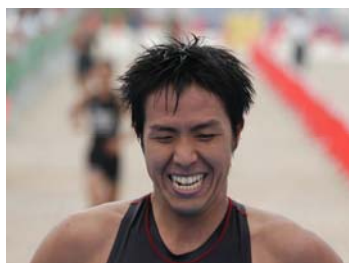
午前9時55分にスタートした女子の第1ヒートは、スイムを得意とする井出樹里(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)、浅沼美鈴(愛知県協会)、村上真悠(千葉県連合)らがトップでバイクに移る。2周目に入ると菊池日出子(チームテイケイジュニア)、井出、浅沼、蔵元葵(東京ヴェルディ)で第一集団を形成。関根はやや遅れてそのあとを追うが、ランで井出が飛び出してトップに立ち、そのままフィニッシュへ。バイクで追いつけた菊池が2位に入った。

第2ヒートも浅沼、村上、井出らが上位でスイムを終えるが、今度は関根がそのすぐ後ろに付く。バイクで先頭集団を追い抜くかと思われた直後に、ランジョンで関根に思わぬ事故。まず、バイクシューズが履けずに遅れをとり、スタートしてしばらく経つと、今度は転倒。結局第1ヒートに続き、井出がランまでトップをキープし、再び1位に。



小名浜大会のためにつくられたポンツーンからスタート

細田 雄一
(ウイダー)



明日から関東で合宿があるので、それに合わせて急きょ決めた出場だったけれど、結果的に3大会連続優勝できてうれしい。足をつってしまったのは筋力不足が原因。自分のせいだし、第3ヒートで抜かされたことはどうかと思うが、総合で優勝できたことが本当に良かった。

井出 樹里
(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)



精いっぱい臨んだが、今回は来週出場するワールドカップ・サルフォード大会の前哨戦として参加した。身体に刺激を与えるつもりで出場を決めたものの、結果を出せたことが本当に良かったと思う。それに初めて参加したスーパースプリントだったが、とても好感を抱くことができた。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



男子は細田、女子は井出が優勝

2007NTTトライアスロンジャパンカップ第7戦・
JTUスーパースプリントトライアスロン選手権第2戦小名浜港大会

続く第3ヒート。バイクまでは井出の勝利かと思われたが、関根が得意のランでベテランの意地を見せる。井出を猛追して抜き、最後に勝利を収めた。総合優勝は、2ヒートを制した井出が勝ち取った。

11時30分にスタートした男子の第1ヒートは、細田がバイクで後続を引き離す。単独トップに立った細田は、その勢いのままランに移る。西内、重田裕也(湘南ベルマーレ)、平松弘道(神奈川県連合)らがそれに続くが、あと一步届かず細田が余裕を見せてフィニッシュ。

第2ヒートでも細田のスピードは落ちないが、独走態勢だった第1ヒートとは違ったレース展開へ。バイクで長谷川裕一(東京ヴェルディ)が細田と競り合い加速するが、急カーブで転倒。すると細田は、ランから2位以降の選手を注意深く確認しながら1位を守り、堅実な戦法でこのヒートを制した。また、第1、第2ヒートとも2位には西内。

第3ヒートに入っても、ランの第2回周目まで細田が継続してトップ。しかし、その直後にアクシデントが起きた。細田が突如、足をつり、一時走れない状態に。その隙に2位に付けていた西内が細田を追い抜き、そのまま第3ヒートを終えた。第1、第2ヒートとも2位だった西内は、第3ヒートでようやくトップに立ったが、結局2ヒートを勝利した細田が総合優勝。また、細田はこれで今シーズンのジャパンカップ3大会連続の優勝となった。

なおレースの様子は、フォトギャラリーでご覧になれます。



男子第2ヒートのフィニッシュ直前。細田が頭脳戦で制した

西内 洋行
(西京味噌)



大体レースの展開が分かっていたので、最後のランで追うつもりでしたが、バイクが思ったよりもきつかった。それでも抜かされても焦らずマイペースで、ランで抜こうと決めて臨んだ。今回は出場できるか直前まで微妙だったが、地元で開催される大会なので応援も多く、参加できたことが良かった。

関根 明子
(NTT東日本・NTT西日本)



第1ヒートでは身体が全然動かなかった。そのうち動くだろうと思っていたところに、第2ヒートで転倒したことで、目を覚ますことができた。ミスもあったけれど第3ヒートでようやく思うようなレースになった。
(怪我をしたが)レース展開が早く、痛みを感じる暇などなかった。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

